

陸前高田発

震災発生から2年1か月

月命日の11日、陸前高田市の寺には津波の犠牲となった家族の冥福を祈り、遺族が墓参りに訪れました。陸前高田市高田町の浄土寺には、津波で亡くなった人の家族や地域の人が朝から訪れ、墓前に手を合わせていました。訪れた人は「震災直後もつらかったが、今になってさらに悲しさがつのっている。自分を責めるような日々です」と、話していました。浄土寺の境内では津波の到達点を桜で結び、後世に伝えるプロジェクト、「桜ライン311」によって植えられたカワヅザクラが、亡き人を偲ぶように静かに咲いていました。(4/11 ニュースエコー)



震災後初めて

宮古湾の花見かき収穫

宮古湾の春の特産品、大粒の「花見かき」の収穫は、11日午前6時半から宮古市赤前地区の宮古湾で行われました。津波で養殖施設は全て流されましたが、山根幸伸さんから地元の漁家が、宮城から種ガキを取り寄せるなどして2年。待望の収穫にこぎつきました。花見かきの身は50グラムと通常のカキの倍以上あります。量は震災前の3分の1程度ですが、殻を開けた山根さんは「大きさ、味とも5、6年に一度のでき」と、豊かな海の恵みに感謝していました。花見かきの収穫は連休前まで行われ、宮古市内のホテル・飲食店を中心に出荷されます。(4/11 ニュースエコー)



山田高校ボート部

新しい艇庫が完成

県立山田高校の新しい艇庫の安全祈願祭が行われました。ボート部は「山田湾」での練習を再開します。安全祈願祭には部員や父母、OBなどが出席しました。これまで数多くの全国大会で入賞を果たしてきた山田高校ボート部。津波で艇庫は破壊され、20艇のボートは全て流失してしまい、これまで場所を花巻市の田瀬湖などの内陸に移し、練習を続けてきました。新しい艇庫は去年、既に完成していましたが週明けにも、山田湾での練習を再開する予定です。山根慶大主将は「頑張っている姿を見てもらい結果を残したい」と誓っていました。(4/12 ニュースエコー)



いわて復興応援団

第3陣が着任

全国から岩手に移り住み復興をサポートする期限付き職員「いわて復興応援隊」の第3陣が15日着任しました。「いわて復興応援隊」は県と市町村などで組織する団体が期限付きで職員を雇用するもので、去年10月と今年1月に続いて3度目の募集です。今回は全国から137人の応募があり、16人が採用されました。このうち陸前高田市に派遣される兵庫県出身の佃実佳さんは、「不安が強いけど、自分らしさをアピールして皆さんに打ち解けられたいと思う」と話していました。(4/15 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122